

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3790500106		
法人名	社会福祉法人光志福祉会		
事業所名	グループホームネムの木		
所在地	香川県観音寺市豊浜町姫浜103番地1		
自己評価作成日	令和6年2月5日	評価結果市町受理日	令和6年3月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様にできるだけ、自分らしく過ごせるような取り組みをしています。ご利用者のつぶやきを拾い、想いを汲み取り、実現できるように取り組んだり、役割や出来る事の継続など、その方らしい生活を続けることで、穏やかに生き生きと過ごすことを大切にしています。
 駐車場を使ったカフェを毎月実施し、近隣の方々の居場所となっており、ご利用者が自分で作った作物を使ってお菓子などを作り、来られた方に提供したりすることもあり、ご利用者が社会参加のできる仕組みが出来上がりつつあります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

松林が美しい砂浜の一角にある木造平屋のコテージ風の建物が事業所である。近くにはスーパーマーケットや総合病院があり、住みやすい環境である。家族や友人、知人が気軽に立ち寄れる雰囲気大切にされており、近隣の方の居場所ともなっている。職員は事業所に魅力を感じ、生き生きと働かれている。管理者は細部にわたり気遣いを発揮して、利用者も職員も一つの家族のように和気あいあいと過ごされている。運動療法やくもん学習、レクリエーション活動にも注力され、利用者一人ひとりと向き合ったケアが実施されている。また、利用者が自然な形で社会参加できる仕組みづくりが心掛けられ、努力されている。

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アストリーム・アライアンス		
所在地	香川県さぬき市津田町鶴羽2360-111		
訪問調査日	令和6年2月15日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念、行動指針、部署方針を毎日朝礼時に復唱している。職員は年に1回、理念研修を実施。また、理念を実現するために、年間・半期ごとの職員と一緒に目標設定を行い、毎月面談を実施することで、職員の意識を統一を図っている	法人理念、行動指針、部署方針を掲示し、毎朝の朝礼で復唱されている。理念研修を年1回は実施されている。各部署では部署目標と職員個人ごとの目標を設定して、実施状況もモニタリングされている。理念に基づいた方針実現に努められている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	コロナにより、ボランティアの受入れには制限があるものの、駐車場を使ったコミュニティーカフェを毎月開催しており、地域の方々との交流の場となっている	コロナ禍による影響はあるものの、駐車場にテントを張り定期的にカフェを開いたり、利用者、家族や近所住民、友人、知人達の居場所づくりを始められている。また、地域のイベントにも参加されている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	5名の職員がキャラバンメイトに登録されており、認知症サポーター養成講座や、市の主催する本人ミーティング、市内での認知症カフェなどに参加し、地域での認知症の啓発活動に参加している			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設行事・事故報告・研修報告など運営に関わる内容について、報告を行い、地域の方々の意見をもらい、今後の運営に生かしている	運営推進会議は2カ月毎に開かれ、議題として資料や写真も使用した分かり易い資料も準備されている。会議録は職員にも閲覧されており、運営推進会の意見はサービス向上にも活かされている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議へ、毎回参加していただき、意見交換をしている。また、観音寺市内の事業所で構成される、地域密着型事業所連絡会を2017年から設立し、情報交換を行っている	市の職員は運営推進会議にも参加して活発に意見交換がなされている。また、地域密着型事業所連絡会を設立し、情報交換や空き情報を共有するなど連携が図られている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入職時と年に2回、身体拘束についての研修を行うとともに、3カ月に1回、身体拘束廃止委員会を行っている。スピーチロックにも留意しており、関わりビデオを撮影し、リーダーを中心に、職員同士で注意をしあっている	定期的に研修を行い、身体拘束廃止について学習がなされている。言葉の使い方にも留意して、動画を撮影して客観視し、注意し合える環境を整えるなど、みんなで一緒にケアの質を高め合う取り組みもなされている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	認知症実践者研修やリーダー研修へ参加し、認知症に対する理解を深め、年間研修計画に基づき虐待防止の研修を実施している			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見人制度を活用されている人は1名おり、関係機関と情報共有をしながら支援を進めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、実際に書面を見て頂きながら説明をしている。ご家族からのご質問や不安な点についても耳を傾け、ご理解・納得いただけるように支援しています。契約後の質問も随時受け付けている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設内に意見箱を設置している。また、アンケートを実施し、ご利用者の意向を反映している。家族会や面会時など、困っていることがないかや意見を聞く場を設けている	意見箱は玄関に設置されている。家族向けのアンケートを実施して、要望等を聞き取る機会とされている。日頃の様子は、定期的に便りや絵手紙、写真にて報告されている。面会時なども直接意向を伺う機会として活かされている	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	拠点長が毎月、職員と個別面談を行い、法人に意見がある場合は、法人全体の会(拠点長が集まる会)に提案し、反映をさせている	職員は個人目標を設定して半期、一年ごとに評価をしている。管理者は職員と毎月個人面談を実施して、意見や希望、提案などの聴取の機会ともなっている。職員の意見や提案は法人全体の会議でも上申され、検討がなされている	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年間目標・半期ごとの目標設定は、職員ごとに設定し、毎月の個人面談にて、個々の業務を把握。その内容で、評価を行い、昇給・賞与に反映させている。また、年に1回、表彰制度を設けるなど、賞賛される場面を大切にしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修参加や資格取得の支援を行っている。法人の基準書に対する研修があり、ケアの統一を図れるように取り組んでいる。新人は、プリセプターを設定し、3カ月～6カ月で一人立ちできるよう、O-JTとOFF-JTを進めている。また、関わりビデオを実施し、自分の介助方法を映像で残し、確認することで、気付きも増え、他職員の良いところを取り入れるなど、職員の意識向上をすることができている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	香川グループホーム小規模多機能連絡協議会、観音寺市地域密着型連絡会に参加し、定期的に話し合いの場を設けている。また、くもん学習療法センターによる、活動事例発表会にも参加をし、他事業との交流を続けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	必ず本人様との面談を実施している。ご自宅や入院先を訪問し、不安な事等を聞き取りしたり、施設へお越し頂き、雰囲気を見て感じて入居への不安を解消できるように時間をとっている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の意見に耳を傾け、頂いた意見に対しては必ず返答をするように、小さな信用を積み重ねる努力をしています。ご利用者の状態を報告するなど、安心していただけるように努力してる		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族の思いを聴き、当施設への入居以外の方法が考えられる場合には、必ず情報提供を行い、選択して頂いてる		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備、後片付け、清掃、洗濯干し・乾いた衣類をたたむなど一緒にしている。声をかけると一緒にシーツをはずしてくれる利用者もいる。常に笑顔の絶えない、家族のような関係作りを大切に考えている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院受診は必ずご家族に依頼している。これは毎月顔を合わせる機会を持つ事、ご利用者の状態を知っていただく事、ご家族と一緒に時間を大切にしてほしい等の思いからです。家族会はオンラインで実施している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時には馴染みの家具や食器を持ってきていただき、落ち着いて生活できる環境づくりに努めている。また、地域の行事や祭りへの参加の継続やかかりつけ医の継続をしている。本人希望時には電話をかけたり懐かしい場所へのドライブ等も実施している。また、共用デイやカフェに来られた友人と話込む姿も見られる	家族の協力も得て地域のイベントや行事に参加されている。受診も馴染みの病院に継続して診てもらっている。携帯電話の充電や電話の取次等の支援がなされている。事業所に知人や住民が気軽に立ち寄りやすい環境が整えられているなどを通じて、入所しても今までの地域とのつながりを断ち切らないよう配慮されている	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	事業所内の行事やレクリエーション活動、趣味の場を設けるなど同じ楽しみを共有しています。また、誕生月にユニット内で祝っています。ご利用者同士のトラブルが発生した時には、お互いの意見を聴いて納得していただけるよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後は、病院や施設への入居される方が100%であり、施設や病院へ情報提供後は密に連絡を取ることはできていないが、デイサービスの営業の際に、ご本人様の顔を見に行くなどしているため、退去後もご家族が相談などに来られることもある		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人に必ず確認をしている。日々の生活の中での小さなつづきからご本人の意向を把握し、本人の立場で判断する努力をしている。家族の協力もお願いしている	行動前に必ず本人の意向が確認されている。また、利用者の思いや希望を日々の生活の中で拾い集められるよう、つづき箱を置いて、職員が利用者の日々のつづきを書き取り、箱に集め、それを基に実現可能な要望や意見が実行される工夫もなされている	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前調査、居宅介護支援事業所からの情報提供や自宅訪問等で本人を知る努力をしている。また、入所後も居宅介護支援事業所へ、入所後の様子をお知らせしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の中でご利用者と計画作成担当者が関わる時間を持つ事で、ご利用者の状態を把握できている。また、介護職員からの意見を集めアセスメントを行っている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	部門別会議やカンファレンスなどご本人の課題について話し合い、サービスに反映させている。歯科医師、歯科衛生士には訪問時に記録を残していただく事で、状況が把握できている。モニタリングは各担当者が実施している	利用者には担当職員が付き、モニタリングが実施されている。会議やカンファレンスを通じて本人の課題等話し合われている。医師や看護師等のアドバイスを参考に、本人や家族等の意向も活かし、ケアマネジャーが計画を作成、本人や家族等にも説明がなされている	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録については、ICT化され、タブレットにあらかじめケアプランの内容が反映されている。日々実施すべきケアは、都度確認し実施の記入をする。できなかったことや気になる事はケースで入力し、申し送りを実施している。ケース記録の内容について、毎月1回出力し、確認している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	居宅療養管理指導にて歯科往診を希望される方への対応を行っている。内科往診も実施している。認知症の進行予防も考え、くもん学習療法を希望される方には、実施をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を使い、近隣でのイベントなどの情報収集を行い、ご利用者が参加できる機会を持っている。音楽療法のボランティア受け入れを再開し月1回実施している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を継続してもらうようにしている。基本的に受診は家族に依頼し、スムーズに受診できるよう、事業所での様子を記載した書面を家族に渡している。緊急時等は、職員が家族に連絡したうえで、受診の支援を行っている。感染の多い時期は、受薬のみに変更したり、職員対応での受診に切り替えている	かかりつけ医は入所前からの継続を基本として、受診は面会の機会とも捉え、家族に依頼されている。日頃の記録等家族と連携して支援が行われている。緊急時には家族に連絡して、職員が付添う場合もある。近くの総合病院からの往診も受けられ体制もある	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の様子を介護職員が記録に残し、看護職員が定期的に確認。必要時には管理者、介護支援専門員に相談をして、早期受診を支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は、看護職員・リーダー・介護支援専門員が本人の状態を把握するために、病院へ出向き、必要時はCWや看護師から話を聞いている。退院後も、不安なときは看護師や主治医に相談している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に「重度化した時の指針」について説明し同意を得ている。また、状態の変化に合わせて定期的に相談を行い、主治医の協力のもと、できる限りご本人とご家族の意向に添えるよう努めている	入所時に重度化した時の指針を説明して同意も得られている。心身の状況変化に伴い家族等と早めに話し合いが持たれており、入院も行われている。主治医の協力や事業所の連携により、出来る限り本人や家族の意向の沿えるよう努められている	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、緊急時対応の研修を実施。以前は消防署に協力を依頼していたが、コロナ禍以降、実施はできていないため、回覧などで周知し、急変時に適切な対応ができるよう継続している。また、入職時の研修は、個別にリーダーより指導をしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間の災害時の訓練は、火災(日中・夜間)、地震、水害にて実施をしている。近隣家やスーパーに協力を依頼する旨の話はしている。施設の駐車場も拡張したため、火災の一時避難としては、テントなどを張り、過ごすことも検討している	災害対策は年間事業計画を立て、計画的に実施されている。避難訓練は火災、地震、水害等で、外部に逃げる場合は駐車場にテントを張って過ごすことも検討されている。防災関係の備品の確認やマニュアルも随時更新されている。近隣のスーパーには協力を依頼している。また地域住民の協力も期待できる	施設の特性に合わせた訓練が計画的に実施されています。更に近隣の方や、地域のスーパー等との合同訓練の実施等を通じて、防災力の強化と地域の拠点施設としての機能の発展に期待します

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄の声掛けは本人だけに聞こえるように配慮し、トイレや入浴時には必ずドアを閉めて1対1でのケアを実践している。また、「○○さん」と名前で呼び、個人を尊重している	排泄や入浴時には他者にわからないようそつと声を掛けるなど配慮がなされている。トイレやお風呂場の入口の戸などその都度閉めるなど実行されている。一人ひとりの利用者に丁寧に接せられている	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の衣類の選択など、自分で出来るように支援をしている。また、つづやきを捨てることで、本人の想いを汲み取り、実現できるように支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴拒否があれば、無理せず翌日へ変更するなど臨機応変に対応をしている。外出や行事への参加についてもご本人の意思を尊重している。また、計画前に実施したいことの意見を聞くようにしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類はご本人が選択しますが、汚れやほころびがある時は、声掛けし更衣している。季節感のある服装の声掛け、整髪などの声掛けを行なっている。また、新しい服を着用している時や似合っている服を着ている時は必ず声をかけ、ほめるようにしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人の管理栄養士による献立をもとに、事業所で手作りをしている。地元の店から届けられる新鮮な食材を使い、利用者にも調理や盛り付け、食器洗い等を手伝ってもらっている。キッチンからは調理の音や匂いが漂い、食欲がそそられる。日曜日にはおやつ作りも行っている	献立は法人の栄養士が作成し、食材は職員が地元の業者に発注し調達されている。利用者は職員と一緒に調理や盛り付け、食器洗いなど手伝われている。おやつなどを作る場合は利用者と職員が相談して、一緒に作られている	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事制限・きざみ食・トロミ食などへの対応をできる範囲で行っている。また、体調に合わせてお粥・おにぎりへの変更、嫌いなものは別メニューを提供し食べていただけるように支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週1回の歯科衛生士の指導や訪問歯科医により治療が必要と指摘された利用者には、ご本人・ご家族に治療方針を伝え、了承後往診にて治療を行っている。早期発見、早期治療となるよう心がけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人の排泄パターンを把握し、その人に合わせて声掛け誘導を行い、出来るだけトイレでの排泄ができるようにしています。訴え時に随時対応している	日中はトイレで排泄を行っている。利用者に合わせて、支援方法は様々だが、自分でトイレに行ける方が多い。ふらつきのある方には、夜間離床センサー等も使用され、トイレへ誘導がなされている	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、ヨーグルトを食事につけるなど、お薬に頼らない努力をしている。排便は量・形状なども記録している。水分補給や散歩に出かけるなど、適度に身が動かせるように支援している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の順番や湯温を本人の好みに合わせている。入浴できなかった場合は、翌日再度声掛けしている。また、清拭・足浴・陰部洗浄などは随時実施している。入浴日を自由に選べるころまでは行っていない	入浴は利用者が順番やお湯の温度の好みを熟知して、実施されている。入浴できない場合は日や時間を変えるなど工夫がなされている。清拭や足浴、陰部洗浄等も随時行なわれ、清潔保持に努められている。概ね週3回は入浴できている	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜でも自室でテレビを持って来ている方を見ることができる。全ての居室にエアコンを設置し温度管理をしている。冬場は、毛布や電気毛布などの持ち込みをしている方もいる。パジャマへの更衣は、必要時は職員と一緒に実施している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬の情報提供書をファイリングし、職員間で共有している。お薬は一包化を基本とし、朝・昼・夕・食前など記入し誤薬予防に努めている。また、服薬後、タブレットに入力している。服薬介助の担当者を決め、声をかけあい、責任を持つようになっている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	つぶやきを拾うことで、誕生日に好きな物を食べたり、手作りでおやつを作ったりしている。また、夏にはゆかた、お正月は着物を着て、化粧をして記念写真を撮るなど、季節を意識した支援をしている。年間を通して、野菜等を栽培し、それを使ったお菓子などを作り、カフェに来られた方に提供するなど、ご利用者のできることを行い、お客様に提供することで喜びを感じられる仕組みを作っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	公園への散歩やお弁当を持ってミニ遠足をするなど、戸外での活動を増やしている。季節ごとに、蠟梅・桜・あじさい・ひまわり・もみじなどドライブをしたりしている。夏には、梨ソフトを食べに行くことは毎年の恒例となっている	散歩として、朝公園を歩いたり、駐車場を歩いたり、その人に合った散歩コースがあり、実施されている。季節ごとの行楽や弁当、外食付きの遠出なども実施されている。つぶやき箱を利用して、行きたい場所へも出かけられるよう工夫されている	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ユニット内でのおやつ購入などをするとき、ご利用者に一緒に行ってもらい、レジにて支払いすることの支援をしている。また、カフェでおやつセットの販売時には、カフェのウエイトレスとして、お金を預かることもしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人からの電話希望の申し出があれば、施設の電話をお使い頂き、家族と会話ができるよう支援している。また、絵手紙を定期的に描き、ご家族に送っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木の良さを生かした建物で、照明は電球色を使用し、温かみのある落ち着いた雰囲気。その中に入居者の作品が飾られている。廊下にはソファを置き、昼食後に入居者がくつろいで過ごせる工夫をしている。ウッドデッキや庭もあり、外で食事をしたり、野菜や花を栽培している	自然の木の風合いを活かし、室内も落ち着いた雰囲気となっている。利用者は、思い思いに新聞を読んだり、ドリルをしたり自分の時間を楽しまれている。壁には合同作品や手作りの品を飾り、ユニット毎に特徴がみられる。手書きのおやつメニューが貼られているなど、生活感と活気も感じられる	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席以外に、廊下にソファを設置したり、ウッドデッキに縁台を設置するなど、思い思いに過ごせる環境づくりをしている。天気の良い日には日差しが差し込み、談笑するご利用者の姿が見られる		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、今まで使用していた家具や食器を出来るだけ持ち込んで頂く様にしている。また、好きな家電製品の持込や家族のお写真など、落ち着いて過ごせる環境づくりを行なっている	居室は清潔感がありベッドと押入れが備えられている。自宅からは利用者が日頃使用していた、家具やテレビ、茶碗やお箸などの愛用品を持ち込み、穏やかに過ごせるよう配慮がなされている	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	毎朝の掃除や食事の準備などはご利用者と一緒に行なっています。常に同じ所に物を収納して、ご利用者の戸惑いが少なくなるようにしている。日々の体調に合わせてご自分で見守り・支援している		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価結果

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
I. 理念に基づく運営			
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念、行動指針、部署方針を毎日朝礼時に復唱している。職員は年に1回、理念研修を実施。また、理念を実現するために、年間・半期ごとの職員と一緒に目標設定を行い、毎月面談を実施することで、職員の意識を統一を図っている
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナにより、ボランティアの受入れには制限があるものの、駐車場を使ったコミュニティーカフェを毎月開催しており、地域の方々との交流の場となっている
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	5名の職員がキャラバンメイトに登録されており、認知症サポーター養成講座や、市の主催する本人ミーティング、市内での認知症カフェなどに参加し、地域での認知症の啓発活動に参加している
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設行事・事故報告・研修報告など運営に関わる内容について、報告を行い、地域の方々の意見をもらい、今後の運営に生かしている
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議へ、毎回参加していただき、意見交換をしている。また、観音寺市内の事業所で構成される、地域密着型事業所連絡会を2017年から設立し、情報交換を行っている
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入職時と年に2回、身体拘束についての研修を行うとともに、3カ月に1回、身体拘束廃止委員会を行っている。スピーチロックにも留意しており、関わりビデオを撮影し、リーダーを中心に、職員同士で注意をしあっている
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	認知症実践者研修やリーダー研修へ参加し、認知症に対する理解を深め、年間研修計画に基づき虐待防止の研修を実施している

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見人制度を活用されている人は1名おり、関係機関と情報共有をしながら支援を進めている
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、実際に書面を見て頂きながら説明をしている。ご家族からのご質問や不安な点についても耳を傾け、ご理解・納得いただけるように支援しています。契約後の質問も随時受け付けている
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設内に意見箱を設置している。また、アンケートを実施し、ご利用者の意向を反映している。家族会や面会時など、困っていることがないかや意見を聞く場を設けている
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	拠点長が毎月、職員と個別面談を行い、法人に意見がある場合は、法人全体の会(拠点長が集まる会)に提案し、反映をさせている
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年間目標・半期ごとの目標設定は、職員ごとに設定し、毎月の個人面談にて、個々の業務を把握。その内容で、評価を行い、昇給・賞与に反映させている。また、年に1回、表彰制度を設けるなど、賞賛される場面を大切にしている
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修参加や資格取得の支援を行っている。法人の基準書に対する研修があり、ケアの統一を図れるように取り組んでいる。新人は、プリセプターを設定し、3カ月～6カ月で一人立ちできるよう、O-JTとOFF-JTを進めている。また、関わりビデオを実施し、自分の介助方法を映像で残し、確認することで、気付きも増え、他職員の良いところを取り入れるなど、職員の意識向上をすることができている
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	香川グループホーム小規模多機能連絡協議会、観音寺市地域密着型連絡会に参加し、定期的に話し合いの場を設けている。また、くもん学習療法センターによる、活動事例発表会にも参加をし、他事業との交流を続けている

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	必ず本人様との面談を実施している。ご自宅や入院先を訪問し、不安な事等を聞き取りしたり、施設へお越し頂き、雰囲気を見て感じて入居への不安を解消できるように時間をとっている
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の意見に耳を傾け、頂いた意見に対しては必ず返答をするように、小さな信用を積み重ねる努力をしています。ご利用者の状態を報告するなど、安心していただけるように努力して
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族の思いを聴き、当施設への入居以外の方法が考えられる場合には、必ず情報提供を行い、選択して頂いて
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備、後片付け、清掃、洗濯干し・乾いた衣類をたたむなど一緒にしている。声をかけると一緒にシーツをはずしてくれる利用者もいる。常に笑顔の絶えない、家族のような関係作りを大切に考えている
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院受診は必ずご家族に依頼している。これは毎月顔を合わせる機会を持つ事、ご利用者の状態を知っていただく事、ご家族と一緒に時間を大切にしてほしい等の思いからです。家族会はオンラインで実施している
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時には馴染みの家具や食器を持ってきていただき、落ち着いて生活できる環境づくりに努めている。また、地域の行事や祭りへの参加の継続やかかりつけ医の継続をしている。本人希望時には電話をかけたたり懐かしい場所へのドライブ等も実施している。また、共用デイやカフェに来られた友人と話込む姿も見られる
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	事業所内の行事やレクリエーション活動、趣味の場を設けるなど同じ楽しみを共有しています。また、誕生日にユニット内で祝っています。ご利用者同士のトラブルが発生した時には、お互いの意見を聴いて納得していただけるよう支援している

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後は、病院や施設への入居される方が100%であり、施設や病院へ情報提供後は密に連絡を取ることはできていないが、デイサービスの営業の際に、ご本人様の顔を見に行くなどしているため、退去後もご家族が相談などに来られることもある
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人に必ず確認をしている。日々の生活の中での小さなつづがやきからご本人の意向を把握し、本人の立場で判断する努力をしている。家族の協力もお願いしている
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前調査、居宅介護支援事業所からの情報提供や自宅訪問等で本人を知る努力をしている。また、入所後もケ居宅介護支援事業所へ、入所後の様子をお知らせしている
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の中でご利用者と計画作成担当者が関わる時間を持つ事で、ご利用者の状態を把握できている。また、介護職員からの意見を集めアセスメントを行っている。
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	部門別会議やカンファレンスなどご本人の課題について話し合い、サービスに反映させている。歯科医師、歯科衛生士には訪問時に記録を残していただく事で、状況が把握できている。モニタリングは各担当者が実施している
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録については、ICT化され、タブレットにあらかじめケアプランの内容が反映されている。日々実施すべきケアは、都度確認し実施の記入をする。できなかったことや気になる事はケースで入力し、申し送りを実施している。ケース記録の内容について、毎月1回出力し、確認している
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	居宅療養管理指導にて歯科往診を希望される方への対応を行っている。内科往診も実施している。認知症の進行予防も考え、くもん学習療法を希望される方には、実施をしている

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を使い、近隣でのイベントなどの情報収集を行い、ご利用者が参加できる機会を持っている。音楽療法のボランティア受け入れを再開し月1回実施している
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を継続してもらうようにしている。基本的に受診は家族に依頼し、スムーズに受診できるよう、事業所での様子を記載した書面を家族に渡している。緊急時等は、職員が家族に連絡したうえで、受診の支援を行っている。感染の多い時期は、受薬のみに変更したり、職員対応での受診に切り替えている
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の様子を介護職員が記録に残し、看護職員が定期的に確認。必要時には管理者、介護支援専門員に相談をして、早期受診を支援している
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時は、看護職員・リーダー・介護支援専門員が本人の状態を把握するために、病院へ出向き、必要時はCWや看護師から話を聞いている。退院後も、不安なときは看護師や主治医に相談している
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に「重度化した時の指針」について説明し同意を得ている。また、状態の変化に合わせて定期的に相談を行い、主治医の協力のもと、できる限りご本人とご家族の意向に添えるよう努めている
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、緊急時対応の研修を実施。以前は消防署に協力を依頼していたが、コロナ禍以降、実施はできていないため、回覧などで周知し、急変時に適切な対応ができるよう継続している。また、入職時の研修は、個別にリーダーより指導をしている
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間の災害時の訓練は、火災(日中・夜間)、地震、水害にて実施をしている。近隣家やスーパーに協力を依頼する旨の話はしている。施設の駐車場も拡張したため、火災の一時避難としては、テントなどを張り、過ごすことも検討している

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄の声掛けは本人だけに聞こえるように配慮し、トイレや入浴時には必ずドアを閉めて1対1でのケアを実践している。また、「○○さん」と名前で呼び、個人を尊重している
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の衣類の選択など、自分で出来るように支援をしている。また、つぶやきを捨てることで、本人の想いを汲み取り、実現できるように支援している
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴拒否があれば、無理せず翌日へ変更するなど臨機応変に対応をしている。外出や行事への参加についてもご本人の意思を尊重している。また、計画前に実施したいことの意見を聞くようにしている
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類はご本人が選択しますが、汚れやほころびがある時は、声掛けし更衣している。季節感のある服装の声掛け、整髪などの声掛けを行なっている。また、新しい服を着用している時や似合っている服を着ている時は必ず声をかけ、ほめるようにしている
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	法人の管理栄養士による献立をもとに、事業所で手作りをしている。地元の店から届けられる新鮮な食材を使い、利用者にも調理や盛り付け、食器洗い等を手伝ってもらっている。キッチンからは調理の音や匂いが漂い、食欲がそそられる。日曜日にはおやつ作りも行っている
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事制限・きざみ食・トロミ食などへの対応をできる範囲で行っている。また、体調に合わせてお粥・おにぎりへの変更、嫌いなものは別メニューを提供し食べていただけるように支援している
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週1回の歯科衛生士の指導や訪問歯科医により治療が必要と指摘された利用者には、ご本人・ご家族に治療方針を伝え、了承後往診にて治療を行っている。早期発見、早期治療となるよう心がけている

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人の排泄パターンを把握し、その人に合わせて声掛け誘導を行い、出来るだけトイレでの排泄ができるようにしています。訴え時に随時対応している
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、ヨーグルトを食事につけるなど、お薬に頼らない努力をしている。排便は量・形状なども記録している。水分補給や散歩に出かけるなど、適度に身が動かせるように支援している
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の順番や湯温を本人の好みに合わせている。入浴できなかった場合は、翌日再度声掛けしている。また、清拭・足浴・陰部洗浄などは随時実施している。入浴日を自由に選べるころまでは行えていない
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜でも自室でテレビを持って来ている方を見ることができる。全ての居室にエアコンを設置し温度管理をしている。冬場は、毛布や電気毛布などの持ち込みをしている方もいる。パジャマへの更衣は、必要時は職員と一緒に実施している
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬の情報提供書をファイリングし、職員間で共有している。お薬は一包化を基本とし、朝・昼・夕・食前など記入し誤薬予防に努めている。また、服薬後、タブレットに入力している。服薬介助の担当者を決め、声をかけあい、責任を持つようにしている
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	つぶやきを拾うことで、誕生日に好きな物を食べたり、手作りでおやつを作ったりしている。また、夏にはゆかた、お正月は着物を着て、化粧をして記念写真を撮るなど、季節を意識した支援をしている。年間を通して、野菜等を栽培し、それを使ったお菓子などを作り、カフェに来られた方に提供するなど、ご利用者のできることを行い、お客様に提供することで喜びを感じられる仕組みを作っている
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	公園への散歩やお弁当を持ってミニ遠足をするなど、戸外での活動を増やしている。季節ごとに、蠟梅・桜・あじさい・ひまわり・もみじなどドライブをしたりしている。夏には、梨ソフトを食べに行くことは毎年の恒例となっている

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ユニット内でのおやつ購入などをするとき、ご利用者に一緒に行ってもらい、レジにて支払いすることの支援をしている。また、カフェでおやつセットの販売時には、カフェのウエイレスとして、お金を預かることもしている
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	ご本人からの電話希望の申し出があれば、施設の電話をお使い頂き、家族と会話ができるよう支援している。また、絵手紙を定期的に描き、ご家族に送っている
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木の良さを生かした建物で、照明は電球色を使用し、温かみのある落ち着いた雰囲気。その中に入居者の作品が飾られている。廊下にはソファを置き、昼食後に入居者がくつろいでもごせる工夫をしている。ウッドデッキや庭もあり、外で食事をしたり、野菜や花を栽培している
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席以外に、廊下にソファを設置したり、ウッドデッキに縁台を設置するなど、思い思いに過ごせる環境づくりをしている。天気の良い日には日差しが差し込み、談笑するご利用者の姿が見られる
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、今まで使用していた家具や食器を出来るだけ持ち込んで頂く様にしている。また、好きな家電製品の持込や家族のお写真など、落ち着いて過ごせる環境づくりを行なっている
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	毎朝の掃除や食事の準備などはご利用者と一緒に行なっています。常に同じ所に物を収納して、ご利用者の戸惑いが少なくなるようにしている。日々の体調に合わせてご自分でできるように見守り・支援している